

らっかせいのアズキノメイガ（新寄主）

令和6年7月下旬に、石狩地方のビニールハウスにおいて、らっかせいの生長点が萎凋する症状が発生した。当該症状は、ハウス内の一カ所に集中していた。萎凋茎は、地上10cm付近の側面に径2mm程度の穴が開き、ここから褐色の喰いクズや黒褐色の糞粒が排出されていた。茎内には、体長1.5cm程度の鱗翅目の中齢幼虫が認められた。幼虫は、頭部および前胸背楯が黒色で、胸部、腹部は淡褐色を呈した。加害幼虫を被害茎ごと15℃で飼育したところ、8月上旬には体長が2cm程度に達して老齢となり、その後蛹化を経て9月上旬に雄成虫が羽化した。この成虫は、翅の模様や中脚脛節が肥大しているという特徴からアズキノメイガ *Ostrinia scapularis* (Walker) と同定された。本種は道内では小豆や菜豆を食害することが知られている。発生地では、近接する小豆ほ場において7月中旬以降にアズキノメイガ成虫、8月以降には同種幼虫による小豆莢や茎の被害が認められており、このことから7月中旬にハウス内に入り込んだ雌成虫がらっかせいに産卵したものと推察された。

（北海道植物防疫協会・中央農試）



アズキノメイガ 左：成虫、右：幼虫（岩崎氏 原図）